

ASJA International Exchange Workshop for
ASEAN-MEXT Scholarship Recipients and Japanese University Students



アスジャ・インターナショナル主催
アセアン国費留学生と日本人大学生との
国際交流ワークショップ





Introduction

写真：2014年度開催のワークショップより

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは

将来のアセアン各国のリーダーをめざすアセアン国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生が、国立オリンピック記念青少年総合センターにおける2泊3日の宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアンの将来の課題、国際協力について、英語による意見交換を行い相互理解を深める。

朝から晩まで英語によるコミュニケーションが続く合宿生活を送ることで、都内にいながらにして留学体験が味わえる。

2014年度から新規で開催し、千葉大学より8名、東京外国語大学より5名、上智大学より11名の日本人学生が参加した。

キーワード：

- ✓ アスジャ国費留学生
- ✓ 日本人大学生
- ✓ アセアン
- ✓ 東南アジア
- ✓ グローバル人材
- ✓ 合宿形式
- ✓ ワークショップ
- ✓ 英語による意見交換
- ✓ 相互理解
- ✓ アスジャ・インターナショナル

アセアンとは？

アセアン＝東南アジア諸国連合 (Association of South-East Asian Nations, ASEAN) は、東南アジアにおける地域協力機構である。

経済成長、社会・文化の発展、政治の安定などを目的に、1967年の「バンコク宣言」によって設立された。

現在、東南アジアの10カ国が加盟している。

<加盟国>

インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス

国費留学生とは？

文部科学省の奨学金を得て日本の高等教育機関で学ぶ外国人留学生。

国際交流ワークショップには、アスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン国費留学生が参加する。

アスジャ・インターナショナル主催

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ

掲載内容

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは

ワークショップのねらい

ワークショップの進め方

グループワーク

期待される効果 - 大学生全体 -

期待される効果 - 日・アセアン別 -

アスジャ・インターナショナルについて

概要

組織・運営

事業内容

参加者の感想

スケジュール

募集要項

実施概要

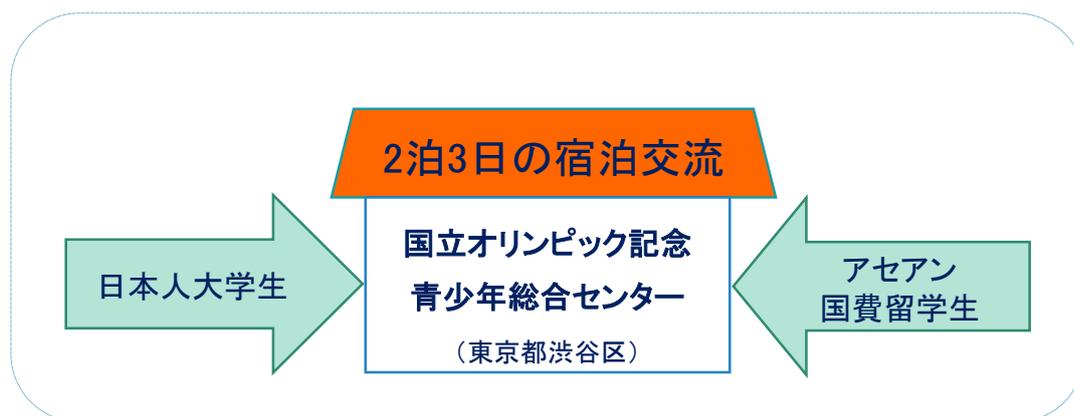
日本人大学生の参加資格および条件

申込方法

申込締切

問い合わせ先

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは



- ✓ アスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン10カ国の国費留学生と、グローバル人材を目指す日本人大学生との国際交流
- ✓ 国立オリンピック記念青少年総合センターでの英語合宿
- ✓ 日本・アセアンをテーマに行うディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
- ✓ 都内にいながらにして味わえる留学体験
- ✓ お互いの国の文化、各国の将来や課題、国際協力について意見交換を行い、相互理解を深める。

ワークショップ (workshop) とは？

多様な文化や資質を持った人たちが、全員参加型の協働作業を行い、相乗効果を生みながら問題解決や創造、学びを行う手法。

近年、留学生と日本人学生が共に学ぶ「国際共修」への関心が高まりつつあるが、その手法としてワークショップが採りいれられている。

言語・文化の異なる学生同士が、互いを理解し自己を確立するための、問題解決力・コミュニケーション力・創造力を育てる人材育成ツールとして、高等教育現場での積極的な採用が期待されている。

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流 ワークショップのねらい

将来日本・アセアン各国でリーダーとしての活躍を期待される大学生の、
グローバル環境下におけるコミュニケーション能力を高めるため、

1. 情報共有力
2. チームワーク
3. 他者への影響力(リーダーシップ等)

を醸成する機会を提供する。



キーワード:

- ✓ 多様性
- ✓ 協働作業
- ✓ 問題解決力
- ✓ コミュニケーション力
- ✓ 創造力
- ✓ 国際共修
- ✓ 人材育成

写真: 2014年度開催のワークショップより





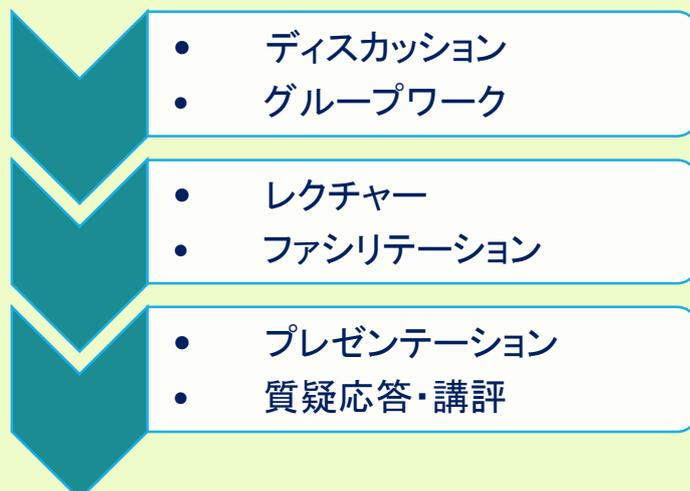
Workshop

写真：2014年度開催のワークショップより

ワークショップの進め方

- ◆ グループごとのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのワークショップを、プロジェクト形式で実施する。
- ◆ 講師によるレクチャーやファシリテーションを提供し、学生同士の積極的な議論を促進する。
- ◆ グループワーク終了後、全体発表会(プレゼンテーション)を行い、質疑応答・講評を通して、プロジェクトにおけるPDCAサイクル*についても学ぶ機会を提供する。

*PDCAサイクル：「計画」(Plan)、「実行」(Do)、「点検」(Check)、「改善」(Act)の頭文字をとったプロジェクト管理手法のひとつ。業務を継続的に改善するために企業等で導入されている。



プロジェクトにおけるPDCAについて学ぶ

グループワーク

アセアン国費留学生と日本人学生との混合グループによるプロジェクト形式を採用

～ 1グループを10人程度で構成 ～

- アイスブレイキング：グループメンバーがお互いを知る
- ステップ1：テーマの理解と問題点の確認作業
- ステップ2：問題の解決策について議論
- ステップ3：発表準備（レジュメ作成等）
- 全体発表（プレゼンテーション）、質疑応答、講評



写真：2014年度開催のワークショップより





写真：2014年度開催のワークショップより

期待される効果 — 大学生全体 —

日本とアセアン各国との相対化

大学生が自国を客観視し、各国の問題意識を理解する。

多様な価値観の中で協働するためのイメージをつかむ。

宗教から民族、言語にいたるまでの多様性を持つアセアンからの留学生と、日本人大学生とが、グループによるワークショップを通して、将来異なる国籍の人間同士で仕事する環境のイメージを感覚的に得る。

限られた状況・環境下において活躍するための肉体的・精神的なタフネスさを身につける。

国立オリンピック記念青少年総合センターでのプログラムや、団体行動、英語でのコミュニケーション体験を通じて、適応力や柔軟な思考力を高める。

期待される効果 — 日・アセアン別 —

日本人大学生	アセアン国費留学生
<p>自らが発信主体になることの重要性を認識する。</p> <p>～グローバル人材として外国人とかわかっていくには、交渉力や情報発信力、自己表現力の開発が必要不可欠～</p> <p>外国人、とくにアセアン留学生の学びに対する積極的な姿勢に触れる。</p>	<p>日本人大学生との合宿・ディスカッションを通して、日本を感覚的に理解する。</p> <p>～日本人の考え方、価値観、自然環境、生活習慣、宗教観や歴史認識～</p> <p>自国と日本との違いを日本人に発信し、理解を求めるコミュニケーション力の必要性を認識する。</p>

自国と相手国との違いを体験的に認識することで、
 自国の事情に対する理解をより深める。
 自分にとっての「母国」を再発見する。

～ グローバル人材になるには、確固たる自己も必要 ～

写真： 2014年度開催のワークショップより





写真：2014年度開催のワークショップ@国立中央青少年交流の家(静岡県御殿場市)

アスジャ・インターナショナルについて

概要

1. アスジャ・インターナショナル ASJA(Asia Japan Alumni) International (以下、アスジャという)は、2000年4月に設立された国際的な組織である。当初5カ国で発足し、現在10カ国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、ブルネイ)が加盟している。
2. アスジャは、日本国外務省の拠出金を受けて、アセアン元日本留学生評議会(ASCOJA*)に加盟する各国元日本留学生協会が推薦する奨学生制度を運営してきた。日本の大学院における教育研究を支援するとともに、日本語習得及び日本文化・日本人を理解して帰国し、将来、日本と母国の架け橋となる人材を育成することを目的としている。各国1名の奨学生を受入れ、2014年度までの修了生は104名である。
3. 2009年の「事業仕分け」により、アスジャ事業は2013年度限りで廃止との決定が出された。
4. 2014年度の政府予算において、新たに「アセアン留学生交流等拠出金」が計上され、アスジャの組織は存続し、文部科学省国費留学生を対象に交流事業は引き続き実施できることになった。2015年度はアセアン10カ国から各国元日本留学生協会が推薦した国費留学生(大学院生、学部生) 23名をアスジャ国費留学生として採用した。

* ASCOJA (ASEAN Council of Japan Alumni)

- 1974年に故福田赳夫元首相(当時の大蔵大臣)の呼びかけで始まった、外務省招聘事業「東南アジア元日本留学者の集い」で交流を深めた各参加者たちが中心となり、ASEAN各国の元日本留学者同士の交流を目的として1977年6月に設立された。
- 元日本留学者が組織するASEAN各国の元日本留学者協会の連合体組織であり、各国において日本文化・日本語などの普及活動を、日本大使館と連携しつつ実施している。
- 現在の加盟国は、ASEAN10カ国である。(インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス)

組織・運営

(1) 理事会

- ① ASCOJA加盟国10カ国より各国1名の理事及び日本側1名の理事によって構成される、最高意思決定機関である。
- ② 事業計画案、予算案、事業報告及び収支決算報告等を審議するため、年に2回開催される(うち1回は書面審査)。

<理事会の構成> 第8期: 2014年4月 ~ 2016年3月

日本	田島 高志氏	元駐カナダ特命全権大使 元駐ミャンマー特命全権大使
インドネシア	ティネケ・マンダン氏 Prof. Dr. Ir. Tineke Mandang	インドネシア元日本留学生協会(PERSADA) 副会長
マレーシア	ウィ・チーキョン氏 Dr. Ooi Chee Keong	マレーシア元留日学生協会(JAGAM)会長
フィリピン	フィリップ・サンヴィクトレス氏 Mr. Philip B. Sanvictores	フィリピン元日本留学生連盟(PHILFEJA)会長
シンガポール	タン・ケー・グアン氏 Mr. Tan Kay Guan	シンガポール留日大学卒業生協会(JUGAS)会長
タイ	サムラン・チュードアングン氏 Dr. Samran Chooduangngern	アスジャ理事会議長(2015年4月~2016年3月) タイ王国元日本留学生協会(OJSAT)会長
ミャンマー	シー・シー・シエン氏 Prof. Si Si Shein	ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)会長
カンボジア	ブテイ・モニラ氏 Dr. Vuthy Monyrath	カンボジア元日本留学生協会(JAC)会長
ベトナム	ゴ・ミン・トウイ氏 Dr. Ngo Minh Thuy	ベトナム元日本留学生協会(JAV)会長
ラオス	ブアソン・ボンタボン氏 Ms. Bouasone Vongthavone	ラオス元日本留学生会(JAOL)会長
ブルネイ	チン・ウェイケイ氏 Dr. Chin Wei Keh	ブルネイ日本留学生会(BAJA) 会長
【事務局】	佐藤 次郎	事務総長 (一財)日本語教育振興協会理事長

(2) 事務局

- ① 事務総長は理事会により任命され、事務局は、事業計画案、予算案等を作成し、理事会の承認を得て実施する。

<事務局の構成>

事務総長 佐藤次郎 ((一財)日本語教育振興協会理事長)

専任職員他 3名

- ② 事務局は、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター(東京都新宿区北新宿3丁目22番7号)に設けられている。

事業内容

(1) 2014年度交流事業

オリエンテーション及び歓迎会(2000年度より実施)

アスジャ設立趣旨、アスジャ事業の理解を深め、留学生同士の交流を図る。

国際理解教育(2000年度より実施)

アスジャ留学生の自国文化、習慣を紹介し、日本人児童・生徒との交流を図る。

国際理解講座(2002年度より実施)

社会人、大学生を対象としてアセアンの文化等について発表する。

ホームステイ(2000年度より実施)

新入生を対象に約1週間の日本人の家庭生活を通じ、日本文化、生活習慣を体験し理解する。

那須甲子ボランティア(2002年度より実施)

国立那須甲子青少年自然の家での約1週間のボランティア体験を通して、日本の青少年教育施設の役割等を学ぶ。

日本文化体験(2004年度より実施)

日本の伝統文化(歌舞伎、能楽、茶道等)に触れる機会を設け、日本文化の理解を深める。

日本生活体験研修(2000年度より実施)

地方の日本文化、伝統、習慣等を自ら体験し、地方の青少年と交流して、日本理解を深める。

研修合宿(2000年度より実施)

日本文化の理解をするとともに、留学生同士の国の伝統文化、食文化等を発表し、相互理解を図る。

アセアン文化交流事業(留学生自主事業)(2003年度より隔年実施)

アスジャ留学生による企画、実施の事業。自国の概要、料理、民族衣装等を日本人や他の留学生たちに紹介する。

修了式及び活動報告(2000年度より実施)

アスジャ留学生としての修了式と留学生より研究成果等の発表等を行う。

日本の大学生等との交流事業(2014年度より実施)

アスジャ留学生と日本の大学生が宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアン各国の課題や協力について英語で意見交換を行い、相互理解を深める。

日本企業の見学(2014年度より実施)

日本の大企業、中小企業の現場を訪問し、日本の企業の実態を直接体験し、日本企業の理解を深める。

(2) ASCOJA各国元日本留学生会の活動の支援

① ASCOJA総会、ASCOJA幹部会への参加

2年に1回開催されるASCOJA総会及び毎年開催されるASCOJA幹部会に参加し、ASCOJA各国元日本留学生会と連携を深める。

② 各国元日本留学生会の現地支援事業の実施支援(2014年度新規事業)

ASCOJA傘下の各国元日本留学生会が実施する日系企業支援、日本語普及、アスジャ国費留学生に対する出発前オリエンテーションなどの事業の支援を行う。

③ アスジャ ジュニアプログラム(2000年～2009年)

アセアン諸国から中学生を約2週間招聘し、日本人家庭でのホームステイや小中学校や青少年交流の家での交流を経験する。

写真： 2014年度アセアン文化交流事業「アセアン文化祭典」





Testimonials

写真：2014年度開催のワークショップより

参加者の感想

立花 慶さん(上智大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

私がこの事業を通して主に二つの成果を得ました。

一つ目は、積極性です。今回の交流事業を通して非常に数多くのことを学ぶことが出来たため、今後も同様の機会が合った際に積極的に参加したいと思うように至りました。

二つ目は、学習意欲です。ASEAN諸国の学生との議論を通して自分の世界諸問題の知識の不足を実感するに至りました。それによって、現在、大学生活においてあらゆる分野の勉強に対して以前より熱が入るようになりました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

主に二つあります。

一つ目は、グループワークで作業をしている際に、各人が自分の役割をしっかりと認識していたことです。私のグループでは、ネットでデータを探す人、議論を仕切る人、SWOT分析を行う人など役割分担が明確になされていました。私は、積極的に意見を発言することに徹していました。この経験は私にとって自分の強みを作る必要性を認識するきっかけとなり、大変印象深いものでした。

二つ目は、議論中に感じたASEANの国々の学生の母国を想う気持ちの強さです。彼らと議論している際には常に母国の経済状況を良くしたいという強い気持ちが感じられました。母国の抱える問題について良く把握していますし、それに対する意見や解決案を各自が持っていました。私は、ASEAN諸国の抱える問題、また、日本の抱える問題について知識を蓄える必要性を感じることができたため、非常に有意義で印象深い経験だと感じました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

私は、参加する日本人学生には積極的に議論に参加してもらいたいと思います。どれだけ積極的に議論に関わることが出来たかで、成長度合いが左右されると思います。英語が得意でないとしても、説得力のある人には皆真摯に耳を傾けますし、また話そうと努力する過程で英語力の上達を実感できると思います。

私はこの交流事業終了後に日本人参加者と感想を共有したのですが、各人が何らかの学びを得ていました。英語力向上の目標が出来た人もいましたし、何事にも積極的に取り組むことの大切さを学んだ人もいました。是非とも積極的に議論に参加し実りある交流事業にしてもらいたいと思います。

石野 恵理さん(東京外国語大学)**プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。**

ASEANからの留学生と、ASEANの将来や日本との関係を考える機会は大変貴重でした。私は外大でインドネシア語を専攻していて、ASEAN10ヶ国からの留学生と意見を交換できたことが興味深かったです。どうしたらASEANが発展できるのか、というテーマ一つにしても、留学生と日本人学生では視点が異なっていたり、一緒だったり、今後専攻のインドネシアをはじめASEANを学ぶ際に、彼らの様に様々な視点から見ていきたいと感じました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

最終日のプレゼンテーションでの質疑応答についてです。日本がASEANへのODA援助を積極的に行っていることに関して議論になった時のことでした。そのとき、ASEANの留学生が、「ASEANは日本からODA援助を受けられて助かっている。もし今後もその援助を受けられるなら有難い。しかしそのお金はあなたたち日本から出ているのだから、本来はASEANへのODAのためではなく、日本のために使える。日本のみんなはどう思うか。」と尋ねられました。日本人としてどう考えるか、ということを求められたと感じました。ASEAN、日本両方にとってどう関係を良い方向にしていくのか、もし金銭面が求められるなら何が正しい判断なのか、両方の立場から考える必要があると感じた瞬間でした。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

ASEAN諸国からの留学生と共に学べる機会はなかなかないです。私は大学でASEANを中心に学んでいるので、彼らとディスカッションやプレゼンテーションをして、とても刺激になりました。ASEANにもともと興味があった人はもちろん、そうでない人も、自分の視野が広がるきっかけになるとと思います。交流会もあり、留学生も日本人学生も楽しく親交を深めることができました。



鈴木 万葉さん(千葉大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業に参加する前から英語で行われる授業を取ったり、留学生と友達になったりして英語に触れ、話す機会にはありましたが、なかなか慣れませんでした。この事業に参加して、24時間アスジャの学生と一緒に生活することでずっと英語を話さなければならない環境に身を置くことができ、英語を話すことを躊躇わなくなりました。今では、英語で日本人と話す時、外国に行ってたんですか？とよく聞かれます。外国どころか飛行機にも乗ったことがないですと答えると驚かれます。英語はもう話せるものだと思いで思い込んでどんどん使っていこうと思います。英語でのディスカッションは大変でしたが、予備知識があれば単語しか聞こえなくても理解できるということがわかり、語学はもちろん自分の専門分野の勉強にも力を入れようと思えました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ディスカッションの時わからなそうな顔をしていると、アスジャの留学生が分かりやすいように言い直してくれたり日本語を交えて説明してくれたりして助けてくれました。嫌な顔をせず私たちが置いていかないでちゃんと議論に参加できるように配慮してくれる温かい気持ちが伝わってきて嬉しかったですし、そういう態度を見て私ももっと彼らと分かり合いたいという気持ちになりました。また、彼らと仲良くなりすぎて一緒にいることが当たり前になってしまい普通に日本語で話かけてしまうなんてことが多々ありました。日本語がわからない子なのに伝わることもありました。友達になるのに言語も国籍も関係ないと思えました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

英語を話せるようになるには外国に行かないといけないなんて嘘です。実際、私はこの夏1か月留学に行った友達よりも英語が話せる自信があります。それは、留学では日本人の留学生同士でいることが多く現地の学生と触れ合う機会が少ないのに対し、このプログラムはかなりアカデミックな内容のディスカッションが多くをしめていたからです。日本で合宿なんて意味ないと思わず参加すべきだと思います。アスジャの留学生はとても優しいです。英語の能力より必要なのは分かり合いたいという気持ちです。英語力なんかよりも大切なことを見つけることができるプログラムです。もちろん、参加する姿勢によりますが、頑張ってください。

モハマッド・ダニール・アリフィンさん(アセアン国費留学生・広島大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

From the Exchange Program activity prepared by ASJA International, I've got many information especially about ASEAN Community. For example, the history of ASEAN Community, Aims and Purposes in the ASEAN Declaration, and also explanation about the content of the blue print in ASEAN Community. ASEAN Countries need to make cooperation with other countries, to improve the acceleration in every field (politics, economics, education, technology and health), for example cooperation with JAPAN. Another aspect that I've been learned about this program is; I've made a new friend with the Japanese student, self-development and awareness leading to enhanced self-confidence, enhanced interest in global issues (ASEAN-JAPAN) as well as a broader general knowledge, to improve the analytical and problem solving skills and increased pressure to communicate and relate to others develops an awareness of group dynamics and personal sensitivity towards others.

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

The discussion session in group is the most impressed session for me, because from this session we had a change to make a warm communication with the group member, transfers knowledge, idea and also we could make an argument about the issues of the condition of the cooperation between ASEAN-JAPAN, especially about the Socio-Cultural Community such as how to advancing and prioritizing education, investing in human resources development, and promoting information and communicating technology. By doing this kind of activity together (discussed and made a power point) even though we had a limited time as a group I feel like I had a great time and good experience on it. It was unforgettable moment in my life.

写真：2014年度開催のワークショップより



参加者の感想

グアン・チャイ・ユーさん(アセアン国費留学生・九州大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

事業の主な時間は日本大学生と一緒にグループディスカッションを進めた。2015年のアセアン経済共同体設立のために、3つの共同体のブループリントがセブ宣言で発表されており、それに従い総合プランを実行している。私達のグループはアセアン経済・社会文化共同体の実現可能性、設立の主な背景、設立によるインパクトを巡り、話し合いを行なった。日本とASEAN諸国の間では貿易、直接投資、ODAの展開を通して重要な役割を担ってきたといえる。この進展では、必ずしも日本側からASEANに対する貢献だけではなくて、ASEANから日系企業の生産・物流ネットワークを与えることができるということが分かった。この項目を通し、私は日本政府の外交政策や日本人のアセアン諸国に対しての見解などの認知を高めた。一方で、この交流会では一番身近な手段として日本の大学生がアセアンを知り、興味を持ち、刺激を受けた活動だったと思う。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

印象に残ったエピソードは国立中央青少年交流の家で行われた懇親会だった。地域で幅広い年齢層で構成されている地元の青年団及び日本大学生との夕食をかねて、日本人と東南アジアの留学生の交流会だった。懇親会が開催された次に、地元の青少年団体は本当に豪快だった。太鼓パフォーマンスを披露し、太鼓の力強い音が心まで鳴り響いた。私は太鼓と言えば太鼓を模したゲーム機『太鼓の達人』しか見たことがなかった。今度の和太鼓演奏を聞くと、綺麗な音が揃っているのに、皆さんが力の続く限り太鼓を打たれる姿に感動した。懇親会が終わるまでに、地元の青年団が導いた踊りは皆さんと一緒に踊り、凄く楽しい時間を過ごした。この懇親会を通し、自分のディスカッショングループ以外の日本人と接することが出来て、新たな人間関係を構築することができた上に、日本の芸術に関する認知も増えてきた。

ドゥン・セイリーンさん(アセアン国費留学生・早稲田大学)

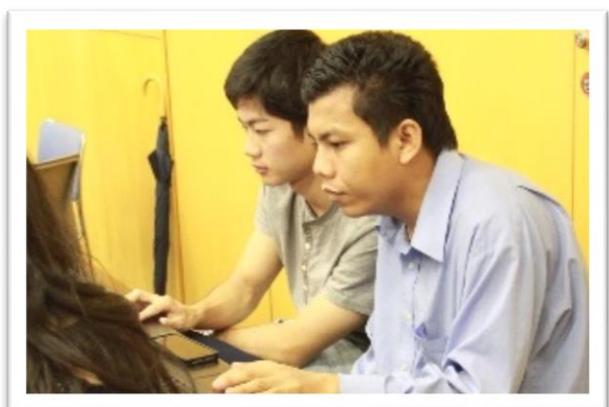
プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

There are a number of things I have gained from this program. To begin with, the Japanese students were enthusiastic and took great interest in the ASEAN integration issues. Secondly, ASEAN Economic integration to be taken place in 2015 could bring some disadvantages to countries with lacking capacity; but if all countries are willing to work together to provide each other's shortcomings as seen in the willingness of all participants in this program; I am positive the integration will become successful. Last but not least, this exchange program widened my perspective on ASEAN issues through discussion among fellow ASEAN students and Japanese students and helped me understand more about their ideas.

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

I have little chance to discuss with Japanese undergraduate students in English prior to this program, and I thought they would find it difficult to communicate in English. But from my group discussion and during the whole project presentation, they expressed and argued reasonably well. In addition, though some of them needed help on vocabulary, they worked hard and had impressive ideas to bring to our discussion table. During the presentation time, they were confident and showed great powerpoint to everyone with precise explanation about their point of view. Besides, all of us come from different universities, various fields of studies, but the team spirit could be successfully conveyed in the whole activity and I really appreciate that.

写真：2014年度開催のワークショップより





Schedule

写真：2014年度開催のワークショップより

スケジュール

1 日目 2015年9月20日(日)

午前	国立オリンピック記念青少年総合センターに集合
	オリエンテーション
	アイスブレイキング ：参加大学生による自己紹介
午後	レクチャー 日アセアン関係について
	ワークショップについて説明 ①ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションのテーマについて ②ワークショップのスケジュールについて
	グループワーク ステップ1：テーマの理解と問題点の確認作業、グループ内での役割分担決定
	ステップ1についてのプレゼンテーション プレゼンテーションのテーマと、グループワークの進め方についてプレゼン
	夕食を兼ねた交流会
夜	グループワーク ステップ2：問題の解決策を話し合い、提言をまとめる

* スケジュールは2015年6月25日現在のものであり、今後変更する場合があります。

2日目 2015年9月21日(月)

午前	グループワーク ステップ2：問題の解決策を話し合い、提言をまとめる
午後	スポーツ&パフォーマンス大会 身体を動かしてグループワークで疲れた頭を休め、他グループのメンバーとも交流を深める。
夜	グループワーク ステップ3：全体発表会準備、レジュメ作成等

3日目 2015年9月22日(火)

午前	グループワーク 全体発表会前の最終準備
午後	全体発表会 各グループによる発表、質疑応答、考察、講評等
	クロージング
夕方	全プログラム終了、解散

*スケジュールは2015年6月25日現在のものであり、今後変更する場合があります。

写真：2014年度開催のワークショップより





Application

写真：2014年度開催のワークショップより

募集要項

実施概要

- 名称： アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ
- 期間： 2015年9月20日(日) ～ 9月22日(火)・3日間
- 場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
- 主催： アスジャ・インターナショナル
- 参加予定： 将来のアセアン各国リーダーをめざすアセアン国費留学生(アスジャ受入れ学生)30名
日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生30名

日本人大学生の参加資格および条件

1. 日本の大学に在籍し、将来のグローバル人材を目指していること
2. 心身ともに健康であり、ワークショップ参加に支障がないこと
3. ワorkshopに参加できる日常会話レベルの英語力を有し、アカデミック英語を学ぶ強い意欲があること
4. すべてのワークショップに参加できること(日程の一部だけの参加は認められません。)
5. プログラム終了後、A4サイズ1枚程度のレポートを提出すること(提出できない場合は、アスジャ事務局が支弁した参加費用の一部を返納する必要があります。)

申込方法

所属する大学の担当窓口に応し込んでください。大学からアスジャ事務局への連絡後、事務局から申込書をお送りします。

申込締切

2015年7月24日(金)

問い合わせ先

アスジャ・インターナショナル事務局

〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号

独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内

電話: 03-5338-1285 / FAX: 03-5338-1286

Email: asja.hagihara@gmail.com

担当: 萩原 (ハギハラ)

写真: 2014年度開催のワークショップより





アスジャ・インターナショナル主催
アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ
2015年6月25日発行

発行者:アスジャ・インターナショナル
〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号
独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内



**ASJA International Exchange Workshop for
ASEAN-MEXT Scholarship Recipients and Japanese University Students**